

## 福井県老人福祉・介護保険事業支援計画策定懇話会の開催概要

- 1 会議名 福井県老人福祉・介護保険事業支援計画策定懇話会（第2回）
- 2 開催日時 平成23年10月19日（水） 13:00～15:00
- 3 開催場所 県庁3階 304会議室
- 4 出席者 「別紙1」のとおり
- 5 議事次第 「別紙2」のとおり

### 6 委員からの主な意見

①健康づくり・ 介護予防	<p>[要介護認定]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・要介護認定の申請の際には、何のサービスを望むか受付段階で専門職が確認をすることで、不要な認定申請が行われないようにする必要があるのではないか。</li><li>・居宅支援事業所やケアマネジャーが多いと、認定が増える傾向があるのではないか。</li><li>・一人暮らし、夫婦だけの世帯が増えていくわけで、介護サービスの実質利用率は上がっていくのではないかと思う。</li><li>・介護サービスを利用したい人の利用を妨げてはいけないが、必要以上に利用を増やすのは自立支援という観点からは疑問で、むしろ介護予防的な方向に向かって欲しいと思う。</li><li>・地域・圏域ごとの要介護認定率の違いには、例えば二次予防の対象者に対する様々な施策、これがうまくいっている地域とそうでない地域、そういったものがこの数字に反映されているかどうかという検証も必要だと思う。</li></ul> <p>[健康づくり]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各町内にサロンを設け、そこに集まって井戸端会議をやることに力を入れているが、引きこもりになりがちな人を誘う有効な手段だと考える。</li><li>・一方で、サロンでも世話をしていただけの方は、前へ前へと進んでいると思う。</li><li>・食べることは重要で、噛む力が弱るとが体も弱るというのが明確に分かっている。</li><li>・ロコモの意識啓発については、県がわかりやすいキャンペーンをしていくことが重要だと思う。</li></ul> <p>[介護予防]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各市町の地域支援事業の介護予防事業は、進め方や求めてくるアウトカムにバラツキがあるので、県としての複数年の目標を定めることも必要でないか。</li></ul>
-----------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防は、「予防給付」もあるし、「二次予防」もあるし、「元気な方の介護予防」もあり、いろんなインフラを連動させていく必要があり、予防に取り組んだ後にどこに繋げるかのマップ（全体像）が必要でないか。</li> <li>・地域支援事業による介護予防の取組みの前後について、地域性を考慮して、各事業が連携して連続性をもってしっかり取り組んでいく必要がある。</li> <li>・介護予防事業についても、ただやるだけではなく、専門性をもってきちんと評価する制度が大事である。</li> <li>・生活習慣病予防と運動や食事をちゃんとする事、それとロコモ対策、認知症の発症予防は全部繋がっている。</li> <li>・介護予防については、団塊の世代に対して、どうしていくかが勝負となる。</li> <li>・介護予防を繋いでいくということについて整理して、市町村を指導して行って欲しい。</li> <li>・回復期のリハ一生懸命やったけど、帰ったらおしまいとなることのないように、今度は動き続ける場に繋げるというのをやらないといけないが、それが次のアクティブシニアの話になると思う。</li> </ul>
<p>②アクティブシニア</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人の行きやすい場というのをもっと小単位でやり、出かけるためのささやかな仕掛けがあるとよい。</li> <li>・高齢者にはどのような気付きを与えるのか大きなポイントで、誰かが教えるのではなくて、地域の仲間が言い出すのが一番いい。</li> <li>・できたら高齢者の働く場があるのがよく、地域に働く場があって、ちょっと小遣い入ると一番いい。</li> <li>・健康な方はサロンに来るが、来られない方については、必ず訪問し、いろんなことをお聞きして、認知症などの恐れがあれば地域包括支援センターに繋いでいる。</li> <li>・普通に皆さんも関心のあることはちゃんと喋るリーダー育てと、それから来ない人に声掛けということが続けるというのがポイントになる。</li> <li>・子どもたちに農業を教えるのに、学校の畑だけでなく、自分たちが住む地域の畑まで学習の場を広げることで、畑をやる高齢者の励みにもなるのではないか。</li> <li>・高齢者リーダーバンクの登録とか、チャレンジ塾の開催とか、パソコン教室の開催とか、かなりいろんな仕掛けが現存しているので、それをもっと広げていけば、新しいものを作らなくても十分使えるのではないか。</li> <li>・外に出て役割を持つというのは自分の幸せのためだと、そういうようなアプローチでどんどんやったらどうだという方が、社会に貢献してくださいっていうよりも分かりやすいかもしれない。</li> </ul>
<p>③地域における支え合いの仕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこにどんな人がいて、そのことをお互い思い合うかというのが、これからの福祉政策の基本中の基本だろう。</li> </ul>

<p>組みづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてに対しての見守りというのはなかなか難しく、「認知症」がモデルになるのではないか。</li> <li>・認知症の人に対するネットワークづくりという中で、地域がまとまっていき、それをさらにどんどん他のことに広げていくという、切り口もあるかと思う。</li> <li>・介護経験者のネットワークで、介護を卒業した方を媒介として、さらに地域のネットワークを広げていくことができれば、物凄い力を発揮するのではないか。</li> <li>・介護とか医療関係の保険を使わなくても、民生委員を中心に地区の人が見回りをしているが、これが本当の見守りかなと思う。</li> <li>・宅老所と保育所が併設したところがあると、老人は保育所へちょっと行って、子どもたちもちょっと来てくれ、そこに老人がちょっと集まれるスペースがあるといいなと思う。</li> <li>・老人クラブは、地域のネットワーク、「見守り隊」だと感じている。</li> <li>・どこかどこかを繋ぎ、お年寄りがその繋ぎ目に入ることが重要で、地域の繋がりになるのではないかと思う。</li> </ul>
<p>④介護人材の確保</p>	<p>[介護職員の不足]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別養護老人ホームは、重度の方ばかりで、多様な入所者がいることを期待し夢を描いて入ってきた職員が退職者し人材難になっていく。</li> <li>・施設には、認知症のショートステイをお願いできるような人員体制にないところが多い。</li> <li>・出張旅費や給料の負担のため、事業所がヘルパーを研修に行かせてくれないので、ヘルパーはなかなか新しいことを勉強できない。</li> <li>・訪問介護の場合、パートだと仕事が安定せず、長続きしないことがある。</li> </ul> <p>[職場環境の改善]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスの中には、単体としてビジネスが成り立つ報酬体系になっていない部分がある。</li> <li>・訪問介護事業所は金銭面で合わず、業として成り立たない。</li> <li>・フルタイムで雇用できず、切り刻みになり、いわゆる登録ヘルパーとなるので、若い人は入ってこなくて、50、60 近くの人しか働き手として入ってこないという負の連鎖にある。</li> <li>・報酬を上げるのは難しいと思うので、働いている人の不安を取り除いて安心して働ける環境をひとつ作っていくことが非常に大切なことになる。</li> <li>・県にはアドバイザーが介護の現場に同行してアドバイスをするような事業を継続的に実施し、安心して働ける職場環境を作っていって欲しい。</li> <li>・そうしないと、在宅、地域ケアという話があっても、担い手である訪問などのヘルパーの確保が非常に難しくなっていくと感じる。</li> <li>・介護職員はキャリアアップ、要は自分たちが力を付けていることを確</li> </ul>

認できる場がないことがやっぱり大きな課題だと思う。

- キャリアアップで頑張って定着率の高い事業所もあり、事業者の努力もかなりあると思うし、県として先進的な事業所をピックアップして何か取り組む予算を持てると良いと思う。

[介護の職場のイメージアップ]

- 2025 年を目標に地域包括ケアシステムを考える上では、そのピーク時だけを捉えて、イメージアップを図るというのでは難しい。
- 訪問介護は大変だというイメージがあるので、職に就く前の方々に対して、介護サービス全体に対するセミナーや訪問介護の重要性とやりがいを伝えてもらいたい。

【別紙 1】

福井県老人福祉・介護保険事業支援計画策定懇話会委員 出席者

氏名	役職等
池端 幸彦	社団法人福井県医師会 副会長 福井県地域包括・在宅介護支援センター協議会 会長 一般社団法人福井県介護支援専門員協会 会長
石丸 美千代	社団法人福井県看護協会 会長
菊田 健一郎	福井大学医学部 地域医療連携部 部長（教授）
木村 洋子 〔代理：皆川恭英副会長〕	福井県老人福祉施設協議会 会長
小西 砂千夫 〔欠席〕	関西学院大学人間福祉学部社会起業学科 教授
坂野 良治	財団法人福井県老人クラブ連合会 会長
田原 薫	福井県ホームヘルプサービス事業者協議会 会長
辻 哲夫 【座長】	東京大学 高齢社会総合研究機構 執行委員 教授
前川 久子	公益社団法人認知症の人と家族の会 福井県支部代表
松井 一人	福井県訪問リハビリテーション研究会 会長

(五十音順)

(事務局出席者)

小林 正明	県健康福祉部 部長
橘 清司	県健康福祉部長寿福祉課 課長
木内 稔	県健康福祉部長寿福祉課 参事

【別紙2】

福井県老人福祉・介護保険事業支援計画策定懇話会  
第2回会議 次第

日時：平成23年10月19日（水）

13：00～15：00

場所：福井県庁3階 304会議室

1 開会

2 議事

(1) 第5期計画における主な検討課題（介護予防、生きがい等）について

- ① 健康づくり・介護予防
- ② アクティブシニア
- ③ 地域における支え合いの仕組みづくり
- ④ 介護人材の確保

(2) 第1回懇話会のまとめ、継続の議論（在宅ケア等）について

3 閉会